

自昭和十四年四月十一日
至昭和十四年四月十二日
安北附近戰鬥詳報

獨立混成第三旅團
獨立步兵第一大隊

安北附近ニ於ケル戰鬥詳報

一戰鬥前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

北中南支全面的ニ蔣ノ所謂四月攻勢ノ笛ノ音ニ踊ル
敵領將中我獨立歩兵第一大隊ヲ臨時配屬ヲ命セリ
シ騎兵集團當面ノモノハ連司令部ヲ五原ニ置キ三軍ヲ
叱咤セントスル

傳作義ト其配下門炳岳其他約一萬余ニシテ其主力ヲ以テ
固陽包頭方面ヨリ又馬占山軍及高双成軍ヲ以テ黃河南
方地ヨリ遠ク陰山南方平地ヲ窺ヒ其前進開始ハ概テ四

月十日頃ト判断セラル

我大隊(職員表附表第一、如シハ)「E」号作戰間騎兵集團
配屬ヲ命セラレ四月六日張家口出發同八日零時十五分
包頭着騎兵集團長ノ指揮ニ入ル

當時ノ騎兵集團ノ態勢及敵狀挿圖第一ノ如シ
此處ニ於テ集團ハ機ニ先ンシテ敵攻勢企圖ヲ破碎スル目
的ヲ以テ當面ノ敵ヲ撃破シ安北附近ヲ占領スルニ決シ固陽
支隊ヲ遠ク茂明安旗ヲ經テ安北背後劉老洞ニ向ヒ前
進セシメ騎兵第旅團長ノ指揮スル部隊(獨逸第大隊、騎兵

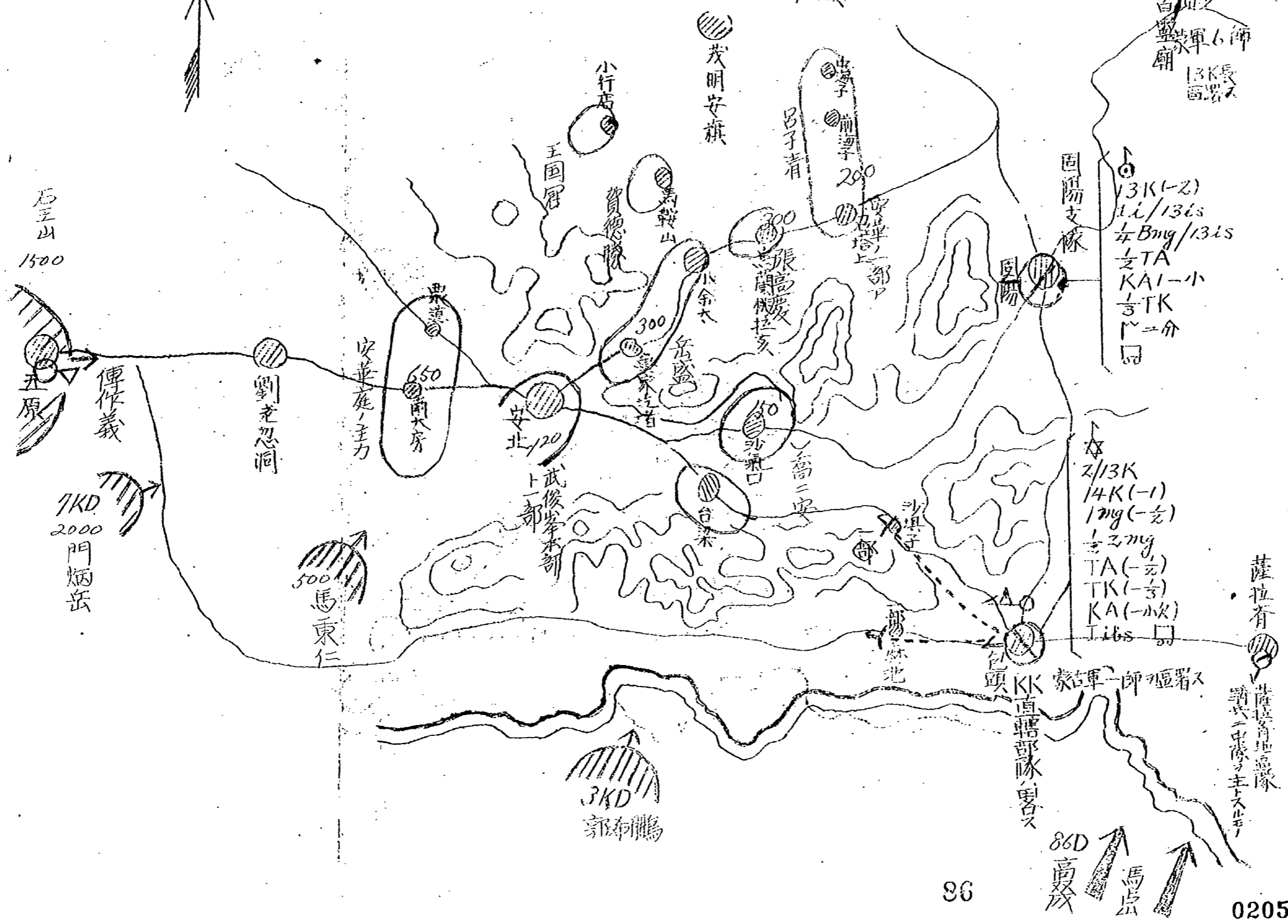
8111

622T

固陽包頭附近騎兵集團態勢及敵情要圖

於四月九日十五時頃

挿圖第一



36

0205

第五聯隊(第四中隊欠)旅團機關銃中隊、速射砲中隊(小隊
(敵軍隊二小隊欠)
 欠)騎砲兵聯隊、騎砲六門砲連、其他所要、自動貨車(八月十
 日包頭一固陽一安北道ヲ安北ニ向ヒ、前進セシメ固陽
 支隊ト策應シ敵ヲ挾撃セシム
 旅團ハ先ツ固陽ニ向ヒ前進同地一泊、上翌十日騎兵第十三
 聯隊(第五中隊欠速射砲中隊(小隊欠)騎砲兵中隊(小隊欠)工
 兵小隊自動車輜重一中隊附スハ前衛トシ爾余ハ本隊
 ナリ七時固陽出發安北ニ向ヒ前進我大隊ハ本隊ニ在リ
 テ前進ス

三

當時ノ旅團ノ前進路挿圖第三ノ如シ

二戦斗ニ影郷音ヲ及ホセル氣象地形及住民地ノ状態

一戦斗第一日ハ西北ノ微風アリシモ天氣晴朗ニシテ朔北ノ寒氣モ

頓ニ和キ時々溪谷ニ残氷ヲ見ル程度ニシテ戦斗動作ニ好

適ノ日和ナリ然レ共當地方特有ノ黄沙ハ自動車ノ連

續通過スルニ從ヒ蒙々タル砂塵飛揚シ車上ニ在リテハ

防塵眼鏡ヲ用フルコトナクシテ良ク展望スルヲ得ス自動

車個々ノ連絡及速度ニ影郷音ヲ及ホセシコト蓋シ甚カラス

之固陽一安北道ハ所謂山間ノ隘路ニシテ屢河床道上ヲ行進

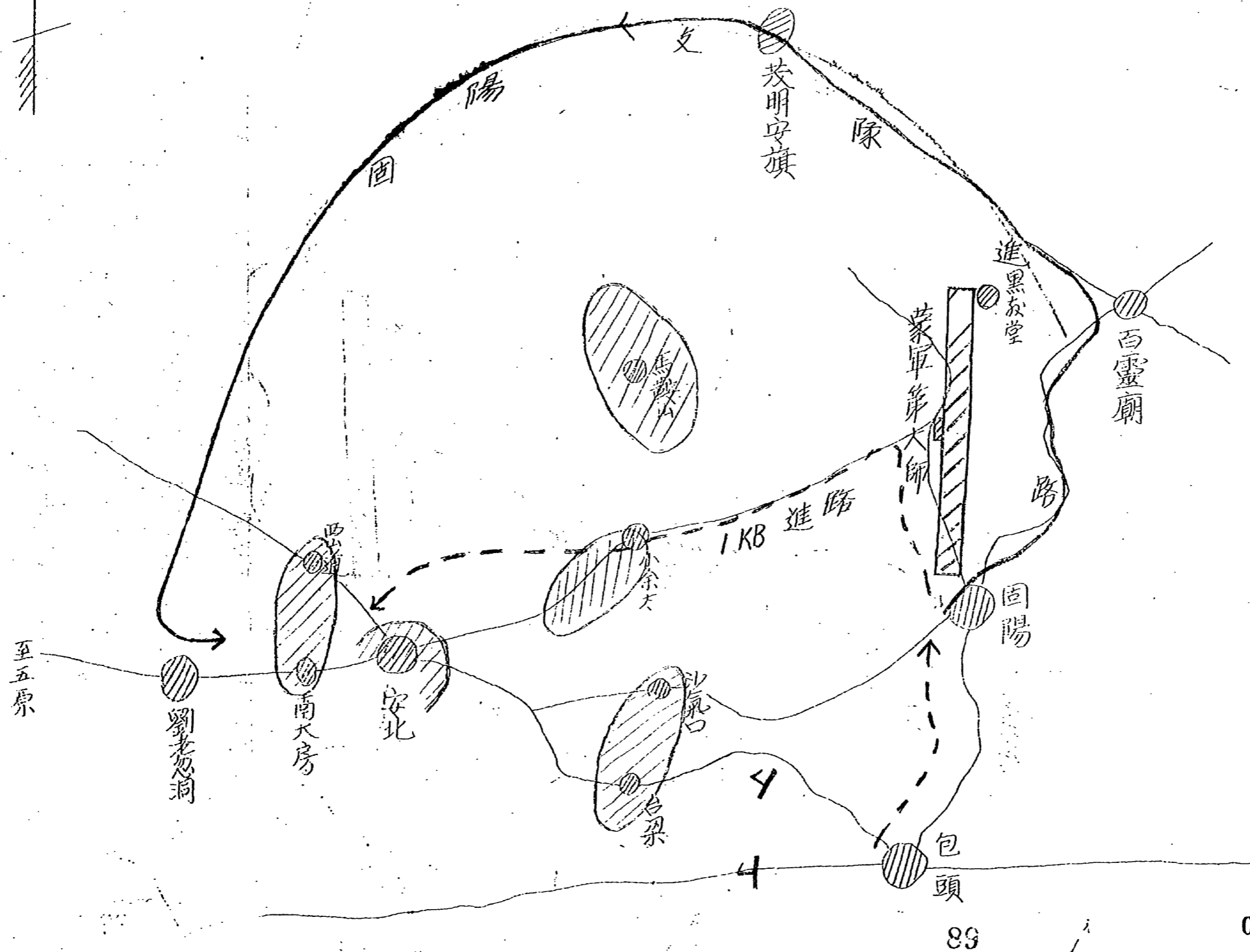
セリ

2821

包頭固陽城北附近騎兵第一旅團進路要圖

(四月十一日ニ於ケル)

押圖第二



路面殆ト全部礫石地ニシテ往々小流ノ流ル、箇所在リ
テ自動車ノ行動ヲ妨害セルコト大ナリ

道路兩側ハ峻峻ナル山峯多ク攀登困難ニシテ匪賊ノ常用
手段タル邀撃手ニ好適ノ地ナルヲ思ハシム此長隘路ヲ過

安北平地ニ出ツレハ所謂蒙古大平原ニシテ一望千里ノ坦々タル
草原續キ我安北城攻撃手ニ當リテハ自動車ノ迂回行動ヲ容
易ナラシメタルモ又一面我企圖行動ヲ過早ニ敵ニ曝露スルノ

不利アリ加之處々亀裂溝、戰車壕ノ相交錯セルアリ又

砂地濕地帶散在シ特ニ遠ク南方ハ全ク濕地帯ニシテ追撃
ニ當リ我カ行動ヲ著シク妨害シ遂ニ捕^獲捉殲滅シ得ヘキ敵

ヲテ退却セシメタルハ長蛇ヲ逸セシ減アリ

戦斗第二日、安北城南方地区ハ砂漠^地草地トノ交錯地帯ニシテ
草地ハ表面堅硬ナルカ如キモ内部ハ柔軟ニシテ自動車ノ通
過スルヤ凹陷甚シク往々濕潤地ニ遭遇シ車輪埋没シ屢歩
輜協同力ニ依リ帝キ出セシ事アリ自動車部隊ノ行動ニ適
セサル地区ナリ

3. 住民地ハ安北西、西方ニ稍集團セルモアルモ其他ノ地方ニ家
屋カ所々ニ点在セル程度ニシテ其規模^{極小}小ナリ所謂貧農部
落ニシテ且其大部ハ殆ト破壊セラレ側壁ヲ残スノミナリ

1784

然シテ其圍壁等モ破損シアリテ廢墟ノ如キ感アリ

我が攻撃ニ六極マテ有利ナリシモ一度宿營センカ附近井水ノ不足ト共ニ休養上極ク不利ナル状態ナリ

4. 本城ハ高さ約四米厚サ上中三米底部約五米一辺ノ長サ概
 ネ一料ノ城壁ヲ以テ圍レ更ニ其外周ニ新ニ壕ヲ周ラシ城
 内部ヨリハ交通壕ヲ以テ連絡シ其外側ニ相當防禦施
 設ヲ施シアリ各四突角ニ圓形突出部アリ各城壁ノ側防
 二任ス又南^{城外}側ニ約二三百米ヲ間シ練瓦ヨリ成ル^土一
 ヲ以テ我ニ近接ヲ戒ムル如ク築設シアリ

五、當地方一般ニ井戸少ク殊ニ安北城ニ二個アルニシテ水量

水質共ニ充分ナラス 露營ニ當リ非常ニ不便ヲ感セリ

三、彼我兵力交戦セシ敵ノ團隊號將帥ノ氏名

編成、裝束、素質、戦法

ノ敵軍ノ兵力

敵ノ

兵力並ニ配置ハ前掲挿圖第一ニ示スカ如

クニシテ^{安北附道}安北華庭ノ率ユル新編第五旅蟠踞ス又情報

ニ依レハ^{安北附道}柳樹國ノ第七師モ安北ニ居リタリコト確實

ニシテ土匪其他ヲ合シ總數約二千ヲ算シ我大隊當

面ノ敵ハ安華庭都下約一千ナリ
我軍、兵力

一、騎兵第一旅團

獨立歩兵第一大隊

騎兵第十四聯隊（一中隊欠）

旅團機関銃一中隊（八銃）

戰車一中隊（小隊欠）七輛

速射砲一中隊（小隊欠）二門

騎砲兵聯隊（騎砲兵門五砲二門）

自動貨車約百七十五輛

口固陽支隊

騎兵隊十三聯隊(三十隊)

歩兵一甲隊

同機関銃一小隊

戰車一小隊

速射砲一小隊

騎砲一小隊

當時獨立歩兵第一大隊長ノ指揮下ニ在リシモノヲ

大隊本部

歩兵^三中隊 (二^小隊編成)

機関銃一^ヶ中隊 (一^小隊欠) 四銃

歩兵砲小隊 (大隊砲 聯隊砲 各一門)

發煙小隊

無線分隊

衛生機関ノ一部

自動貨車 三^〇輛

3. 團隊號及將帥ノ氏名

4 編成壯衣備

イ 安華庭ノ指揮スル新編第五旅
 ロ 何桂國ノ指揮スル騎兵第七師
 ハ 武俊峯ノ指揮スル抗日軍

迫撃手砲

若干

機関砲

若干

機関銃

相當数ヲ有ス

小銃ハ各自携行セルモノ、如シ

5 素質

我奇急 龍衣ニ依リ脆クモ敗退セル矣、安北城附近
 ニ設備シテリタル防禦施設及「トカ」ハ外觀ニ似ス脆弱
 ニシテ且少シノ偽裝モオシマス加フルニ據ラサリシ点
 等ヨリ判断スル素質優良ナルモノト認め難シ

6. 戦法

敵我奇龍衣ニ依リ大ニ抵抗ヲ為スコトナク敗退セルニ依リ
 之ヲ察知スル能ハサリシモ次後行ヒタル掃蕩戦等ヨリ是
 察スルニ支那軍ノ常套手段ヲ誘致戦法ヲ唯一無二ノモノ
 セルモノ、如シ

三

四各時期ニ於ケル戦斗経過及関係部隊ノ動作及連絡施設
ノ状態

A 戦斗 第一日 四月十一日

旅團土星時固陽出發人和泰ニ如地小余太ヲ經テ安北北
方高地ニ向ヒ前進ス

當時ニ於ケル前進部署ヲ如シ

前衛

司令官 小林 騎兵大佐

14R

戦車小队

騎兵第十四聯隊(第四中隊欠)

速射砲中隊(小隊欠)

騎砲兵聯隊第二中隊(小隊欠)

工兵小隊

輜重兵第四中隊(小隊欠)

本隊(同行軍序列)

戰車隊主力(長發地ニ向ヒ先發)

獨立歩兵第一大隊第一中隊

旅團司令部

五

旅團機関銃第一中隊(第二中隊ノ小隊ヲ含ム)

騎砲兵聯隊(第二中隊ノ小隊也)

山砲兵小隊

歩兵大隊(一中隊ト小隊也)

患者輸送部第三十九班

旅團輜重隊

歩兵小隊

前衛ハ途中敵ノ小抵抗ヲ排除シ十六時三十分頃安北北方
約三料隘路口ニ進出安北城北側ノ敵ヲ攻撃中十六時五

天

十分大隊ハ該隘路口ニ進出シ西南方ニ遠ク安北城ヲ望見
 ス敵ハ同城及其附近ニ陣地ヲ占領シ前衛ト戰鬥中ナリシモ我
 旅團ノ神速ナル進出ニ稍虚ヲ衝カレタルモノ如ク動搖色
 アリ旅團ハ機ヲ失セス我大隊ニ左記要旨命令ヲ下シ達セ

旅團命令

四月十一日十六時十分
 於安北北側司令部

一 敵一部ハ西方ニ向ヒ退却ヲ開始シ主力ハ尚城壁ニ據
 リ抵抗シツアリ

ニ 旅團ハ前衛ヲ以テ退却中ノ敵ヲ追撃シ主力ヲ以テ安

北城ヲ攻略セントス

三、辻村部隊ハ速ニ安北城南角ヲ攻略シ一節ヲ以テ城ヲ
ノ掃蕩ニ任スヘシ

四、騎砲及山砲ヲシテ現在地ニ陣地ヲ占領安北城ヲ襲撃ス協

カセシム

五、一ヶ中隊ヲ旅團豫備隊トシテ現在地ニ隊置スヘシ

旅團長 大賀 少將

時正ニ十六時三十分前衛タル小林聯隊ハ隘路口ニ居ル

安北城及ニ分子、五分子八分子其他附近部落、敵ニ對シテ攻撃

中砲兵又隘路口附近ニ陣地ヲ占領砲撃ヲ開始ス砲聲ヲ散

敵陣ヲ厭ス

大隊ハ前記旅團（要旨）命令ニ基キ南方迂迴城ノ東南角奪取

目的ヲ以テ急進ニ記要旨命令ヲ下ス

云甲第五七号

辻村部隊命令

四月廿日 辻村部隊側面

我急襲ニ狼狽セル敵ハ已ニ動搖ノ色顯著ニシテ

主力ハ尚城壁ニ止マルモ一部ハ西方ニ退却中ナルカ如シ

ニ大隊ハ城北城東南角ヲ奪取スル目的ヲ以テ南方ヨリ急

進セントス

前進目標尤ク自ラトシテ力次ニ城壁東南角トス

元

○大隊ノ戦斗為ノ前進部署附圖第三ノ如シ

五大隊長ハ第一線中隊ノ中央後ヲ行進

大隊長 辻村 中佐

三 第三中隊第一線機関銃^{中隊}第二線右歩兵砲^{中隊}第三線
 中央旅團機関銃第三線右第三中隊第三線各
 線ノ距離ニ〇〇米各隊ノ間隔一〇〇米基準
 第一中隊トス
 四 各隊ハ自動車搭乘ノマ、横隊ニ排開急進ス

4. 敵情急ヲ要スルモアリ遂次到着スル部隊ニ命令ヲ與ヘ衆
 車前進ス城壁上及外壕附近陣地ヨリ盛ニ射撃ヲ受
 クルモ敢然車行シ城ノ東南角ヲ距ル概ネ一料ノ地矣ニ達
 スルヤ全員下車ヲ命シ左記要旨ノ命令ヲ下ス

又甲第五八号

大隊命令

四月十一日十七時五分
 於城東南角ヨリ

一 敵城壁ヲ據リ最後防守ニ努メツナルモ一部ハ逃走シ

アリ

二 大隊強龍衣ヲ以テ東南角ヲ奪取セトス

攻撃手重兵ハ簾中隊ノ正面トス

旅團砲兵隊ハ大隊ノ攻撃ニ協力ス

三 第三中隊(機関銃)小隊ヲ附スハ右第一線現在地ニ展開
東南角ニ向ヒ攻撃す

四 第三中隊(小隊)左第一線第三中隊ノ左ニ連撃ヲ現在
地ニ展開當面ノ敵ニ對シ攻撃す

五 機関銃中隊(小隊)ハ第一中隊ノ右ニ戦斗加入適時
射撃ヲ開始主トシテ第一中隊ノ攻撃ニ協力スヘシ

六 歩兵砲隊ハ現在地附近ニ陣地ヲ占領シ東南角附近
ニ現出スル敵側防火器ヲ扱メテ射撃スヘシ

主トシテ第一中隊ニ協力

七旅團機関銃八第三中隊ノ左ニ陣地ヲ占領主トシテ
第三中隊ノ攻撃手ニ協力一部ヲ以テ突角附近ニ現出スル
敵自動火器ニ對シ射撃手スヘシ

八各隊ノ攻撃手前進ハ別ニ示ス

九發煙小隊及第三中隊ノ一小隊ハ大隊豫備トス

内田少尉之ヲ指揮シ第一中隊ノ後方三百米ヲ前進
スヘシ

豆倉本大尉ハ適時傷者ノ收容ニ任スヘシ

三

二、予ハ第一中隊後方ヲ前進ス

大隊長 辻村 中佐

三、大隊ノ攻撃戰斗經過附圖第三ノ如シ

ハ各隊迅速ニ展開スルヲ見直シ攻撃手前進セシム敵ノ射
撃手亦我前進ニ從ヒ旺盛ナル機正ニ熟ス步兵砲機関銃
ハ滿ヲ持シタル射彈ヲ轟然突角ニ集中シ爆煙蒙々城
壁焉形改ムルノ慨アリ第一中隊ハ敵彈雨飛中ヲ勇
躍突進突角ニ迫ルヤ我協力砲兵ノ有效適切ナル射撃手ト
大隊重火器ノ猛射ニ已ニ動搖セル敵ハ遂ニ脆クモ算

三

ヲ乱シテ西方、西南方ニ逃走ス、即チ第一中隊ハ鞍
 ノ上、城壁ニ迫リ人梯ニ依リ突角上ニ登リ確實ニ之ヲ占領
 ス時正ニ十七時三十五分城頭高ク掲ケシ日章旗燦
 然トシテ夕陽ニ映ヘ皇威ハ絃ニ輝キ我大隊安北^城番衆
 ノ喚聲ハ蒙古ノ大平原ヲ壓シ其榮光長ク黄河ノ
 流ト共悠久ノ歴史ヲ語ルヘシ
 斯クテモ氣益揚カシ大隊ハ田村中尉ニ爾後ノ縦隊
 追撃ヲ前進ヲ顧慮シ自動車ノ整理ヲ命スルト共ニ
 直ニ第一中隊機関銃部隊^三城^内ヲ掃蕩シ且各城

門ノ占領ヲ命シ主力ハ敵陣奪取ノ余勢ヲ驅テ驀進
戰場追撃ヲ移ル之カ為遂次ニ九記要旨命令ヲ下
到着スル各隊毎追撃ヲ前進セシム

云甲第五九号

大隊命令

四時北城東南角

- 一 敵主力ヲ以テ西方ニ一部ヲ以テ西南方ニ退却中ナリ
- 二 大隊ハ當面ノ敵ヲ西方及西南方ニ追撃ヲセントス
- 三 各隊ハ現在ノ態勢ヲ以テ直ニ追撃ヲ前進
- 四 機関銃隊ハ夫々當面ノ敵ニ對シ追撃ヲ射撃
- 三 中隊ニ協力

五旅團機関銃隊ハ西南方ノ敵ニ對シ追撃ヲ射撃
六歩兵砲隊ハ適時陣地ヲ推進シ當面ノ敵ニ對シ追
撃射撃

七予備隊タリシ第三中隊ノ小隊長ハ中隊長指揮ニ復
歸セシム

八田村中尉ハ爾後ノ縦隊追撃ヲ顧慮シ自動車
ヲ整備シ置クヘシ

九予八第三中隊ノ後方ヲ前進ス

大隊長 辻村 中佐

元

久大隊ノ追撃手要領附圖第三ノ如シ

又安北城占領ニ勇氣百倍セル各隊ハ右追撃手命令ニ更ニ勇躍

五原方面ニ西北進ス浮キ足立ケシ敵ハ抵抗ヲ試ルコトナラ

馬足ヲ利用シ算ヲ乱シテ西北進ス大隊ハ全員乗車

縦隊追撃手ニ移リシモ

安北城西側地区ニ於テ地障

ニ遭遇セシヲ以テ 徒歩ニテ縦隊追撃手ニ移リ車輛ハ安

北城内ヲ通過シ西門ヨリ大隊ニ追及ヲ命ス

縦隊追撃手ノ為テタル命令尤ノ如シ

五甲第六〇号

辻村部隊命令

冒十一月十七日
於安北縣西側地区

一、敵情ハ諸官ノ見ル通り

二、大隊ハ一部ヲ以テ安北縣城ヲ確保スルト共ニ主力ヲ以

テ安北縣上五原道ヲ水泉ニ向ヒ追撃手セントス

第三中隊(機関銃小隊步兵砲一分隊ヲ附ス)ハ安北縣城

ヲ確實ニ占領セリ

三、第三中隊(小隊及機関銃小隊ヲ附ス)ハ尖兵トナリ本道

ヲ水泉ニ向ヒ前進スヘシ 本隊トノ距離ニ三ヨロ

四、爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ龍ノ順序ニ前進スヘシ

旅團機関銃

三九

本部

發煙小隊

機関銃中隊

歩兵砲小隊

第三中隊ノ二小隊

五、通信所ハ直ニ閉鎖大隊本部ニ追及スヘシ

六、各隊ハ乗車追撃ヲ前進スヘシ

七、田村中尉ハ大隊ノ全自動貨車ヲ区上處スヘシ

八、予ハ尖兵中隊ノ後方ヲ前進ス

部隊長 辻村中佐

所命如ク各隊ハ行動ヲ開始シ大隊ハ安北城南側道
路ヲ迂迴水泉方向ニ退却セル敵ヲ追撃手中安北西
方約一料半ノ地点ニ達スルヤ兼用車ニテ暮馬進追及セル
旅團副官ヨリ記要旨ノ旅團命令ヲ接受ス

旅團命令

四月十八日
安北司令部

- 一 敵ハ主力ヲ以テ六十三方向ニ一部ヲ以テ水泉方向
ニ退却セリ

二 辻村部隊ハ直ニ六十三方向ノ敵ヲ急追スヘシ

旅團長 大加貝少將

旅団長(領)

當時尖兵第三中隊(小隊欠機關銃一小隊ヲ附ス)ハ少数

ノ敵ト戦斗中ナルヲ以テ之ヲ現地ニ残置シ大隊長ハ直

ニ之ノ命令ヲ下達ス

乙甲第六一號

辻村部隊命令

四月廿日 野田方

一、敵ハ主力ヲ以テ六十三方向三部ヲ以テ水泉方向ニ退却シ

二、大隊ハ南轉ニテ敵主力ヲ捕捉殲滅スル目的ヲ以

テ六十三ニ向ヒ急進セントス

三、第三中隊ノ小隊尖兵(機關銃一小隊ヲ附ス)本隊

ノ前方五〇米ヲ六十三ニ向ヒ前進スヘシ
四本隊ハ九ノ順序ニ依リ六十三ニ向ヒ前進スヘシ

大隊本部

機関銃隊

旅團機関銃隊

歩兵砲小隊

五、發煙小隊ハ大隊本部ニ續行スヘシ

六、救護班ハ本隊ノ後尾ニ續行スヘシ

七、第三中隊長ハ残余ヲ指揮シ本隊ニ追及スヘシ

三

八余八本隊ノ先頭ヲ前進ス

大隊ノ追撃手状況附圖第...
大隊長 村中 佐

八尖兵八直ニ南転縣南^城方草地ヲ全速カラ以テ前進ス

爾余ノ諸隊モ亦砂塵ヲ蹴ツテ^急進ス
尖兵苗ニ廟ニ達スルヤ遂方東南方ニ敵ノ監視兵ヲシ

キモノヲ見ル大隊八更ニ南進ニ至ルヤ敵八同地

南方石拉圪ト附近砂漠地帯ニ進入セルモノク如何任候ヲ

シキ者時隱顯ス大隊長八尖兵小隊ヲシテ歩兵砲小隊

協力下ニ此敵ヲ攻撃手セシメ主カ八依然追撃ヲ續行セ

シニ敵八折柄ノ薄暮ヲ利用シ南方ノ砂漠地帯内ニ深ク遁

B.

戦斗第二日

四月十二日

五

安北附近戦斗経過概要附圖第一乃至第四ノ如シ

ス

リト報ニ接シ之ヲ掃蕩シ二十四時城内ニ敵四退宿營
 城約一料ノ喇喉坑塔及通順泉附近ニ約六七百ノ敵ア
 團予備ニ残置セシ第三中隊長ヨリ報告アリ安北縣
 止ニ部隊ヲ集結安北城ニ至ル時ニ二上時ナリ時恰モ旅
 ニシテ自動車ノ行進愈困難トナリシヲ以テ一先ツ追撃ヲ中
 入ス 八隊ハ極力追撃ヲ努力メタルモ砂漠地及濕地帯

大隊八四日未日夜九時要旨旅團命令ニ接ス

吳

辻村部隊(第三隊又第四隊)兵隊旅團機関銃小
隊ヲ附ス(六南討伐隊)上リ明十日九時出發安北西南
方約四十料紅門鬼方向ニ前進同地附近殘敵ヲ掃
蕩スヘシ

之大隊八十三日九時出發附圖第五圖ノ如ク前進中十三時
蘇家壕附近ニ於テ岩間中尉操縦飛行機ヨリ敵騎
約三四〇ハ小召ニ蹻躡中自通信筒投下ニ依リ承知シ
直ニ該敵ヲ攻撃スヘク前進セシモ道路テク且ソ濕地及

沙漠地ノ爲自動貨車ノ運行不可能トナリシヲ以テ將
 校任候ヲ以テ極力敵ノ退却方向(偵察)ヲセシメシニハ分子方向
 向ヒ乱雑且多数ノ蹄跡ヲ認メハ分子方向ニ轉進スハ
 ク命シ不毛ノ地ニシテ自動車ノ運行頗ル困難ヲ極ムル
 地ヲ銳意前進ヲ續行シ十七時頃ハ分子西方約ニ
 マロロ米ノ地点ニ達ス此時突如敵ノ監視兵我ニ射撃
 ヲ開始セルモ戦機末々至ラス續イテ敵ノ前進部隊
 マシキモヨリ連續射撃ヲ受ケシヲ以テ尖兵(第二中
 隊加納小隊旅團機関銃(小隊)ヲシテ直下車主力ノ展
 毛

開ヲ掩護セシメ且地形上必ス右側面稜線ニ敵主力ノ
 存在スルヲ予想シ彼ノ常套手段タル誘致戦法ヲ逆用
 シ其龍羽異地区ニ大隊攻撃手重兵ヲ指向スル如ク隊ヲ
 部署ス、果セル哉敵ハ其前進部隊ヲ東ニ向ヒ後退
 セシメ南方ヨリ兵ノ側面ニ猛射ヲ加フ
 即チ我予想通りノ戦斗法ヲ採リ其陣地ヲ曝露ス
 即チ好機正ニ棄スヘキノ秋ナルヲ以テ我大隊ハ俄然敵
 ノ左翼ニ殺倒ス當時攻撃手ノ為下シタル大隊命令龍ノ
 如シ

二、^二甲^六第^四部^隊命令

四月十一日 七時三十分
於八分子西方三料地裏

一、敵諸官ノ見ル通り前面ノ小丘阜ニ一部主カラ以テ

右側稜線ニ側面的ニ陣地ヲ占領シアリ

二、大隊ハ重兵ヲ右ニ保持シ敵陣地ノ左翼兵ヨリ蔽捲

撃手滅セントス

三、尖兵ハ現在地ニ停止シ大隊ノ展開ヲ掩護スハシ

四、第二中隊(小隊欠)ハ左第一線尖兵ノ右ニ展開シ大

砂山方向ニ攻撃手

爾今加納小隊及同配屬

機関銃ヲ貴官ノ指揮

三

二、入ラシム 攻撃手前進ハ別命ス

五、第一中隊ハ現在地附近ニ於テ展開敵ヲ包圍スル如ク直ニ攻撃手前進

六、旅團機関銃隊ハ第二中隊ノ右ニ陣地ヲ占領主トシ

テ第二中隊ノ攻撃手ニ協カスヘシ

七、機関銃隊(小隊欠)ハ第一中隊ノ右ニ戦斗加入主トシ

テ第二中隊ノ戦斗ニ協カスヘシ

八、歩兵砲隊ハ第二中隊後方附近ニ陣地占領主

トシテ第二中隊ノ戦斗ニ協カスヘシ

九山砲小隊ハ第三中隊ノ西側附近ニ陣地ヲ占領シ

大隊主力攻撃手正面ノ敵ヲ制壓スヘシ

五、發煙小隊、工兵小隊ハ予備隊トス 第三中隊後

方前進

二、倉本大尉ハ大隊本部附近ニ於テ適時傷者ノ

救護ニ任スヘシ

三、無線分隊ハ大隊本部附近ニ於テ通信所用

設旅團トノ通信連絡ニ任スヘシ

三、予ハ第一、第二中隊ノ中間地区ヲ前進ス

部隊長 辻村中佐

四三

又各隊ハ巧ニ連繫敵ノ損害ヲ受クルコトナク攻撃ヲ前進ス然ル
 ニ敵ハ遂次其左翼ヲ延伸其戦斗正面實ニ約ニ料ニ違
 ス時恰モ王兵隊ハ道路際作業中ニテ 戰場到着稍遅延セシ
 ヲ以テ王兵小隊長ハ戦況予備隊ニ入ルヲ適當トセラルヲ看取
 シ獨断予期セサル敵ノ羽翼側ニ進出猛烈果敢ニ攻撃ヲ第
 一中隊ノ勇敢ナル攻撃ヲ相俟テ敵全戦ノ敗退ノ因ヲ
 作レリ

又敵ハ大隊ノ術中ニ陥リ東方ニ又北方ニ算ヲ乱シテ退却シ

第三第三線^{所々}上^{所々}救狀地ヲ利用小抵抗ヲ試ミタル後多大損害
ヲ蒙リ沙漠地帯ニ退却ス

大隊ハ直ニ敵ニ追尾シテ全線舉ケテ追撃手ニ移リ自動車
又追撃手準備ヲナシタルモ沙漠地帯ニテ行動意ノ如ク
ナラス加フル日設トナリシヲ以テ兵力ヲ集結ス

時正ニ三十一時四十分直ニ安北ニ向ヒ前進ヲ命ミタルモ途
中沙漠地帯地相繼ギ歩輜協同自動車ノ引キ上ケ後
押シ等ニ數時ヲ費シ翌朝ニ時三十分安北城ニ集結
ス

六八分子附近戰鬥經過附圖第六、如シ

當時我ニ對セシ敵ハ四月十日安北附近、戰鬥ニ於テ敗レルヲ安

華庭ノ部下ニシテ新編第五旅第十團ハ約七〇〇名ニシテ輕機

関銃若干ヲ有シ各人小銃ヲ携行ス

我獨立步兵第一大隊(第三中隊)及機關銃中隊步兵砲小隊及

發煙小隊ヲ有ス)山砲兵小隊、工兵小隊、騎兵旅團機關

銃小隊無線一分隊、衛生機關一部、自動貨車約五輛

トス

五、戰鬥後ニ於ケル彼我形勢ノ概況

包頭及固陽附近奪還ヲ豪語セシ門炳岳指揮下ノ安

四四

華庭其他ハ健氣ニモ蔣ノ四月攻勢ヲ策應セシモノ、四月十一日
 ノ我軍ノ電光石火的ナル奇襲ニ哀レシモ鎧袖一觸慘敗ノ憂
 目ニ逢ヒテクモ安北ノ北ニ西南ニ余端ヲ保テシモ引續ク
 十二日ノ各地区ノ掃蕩戰ニ綏遠ノ霸府ヲラントスル野望
 モ今ハ槿花一朝ノ萎々ト化セシコソ笑止ナレ
 此所ニ於テ旅團ハ固陽及安北ニ夫々騎兵第一三聯隊騎
 兵第十四聯隊ヲ主トスル支隊ヲ配置シ北方西方ニ對シ備
 ル所アリ、主力ハ包頭ニ集結スルニ決シ我大隊ハ同地ニ集結
 隨時出勤シ得ル態勢ヲ探レリ

六、齟齬過失其他參考上ルヘキ事項

ハ我大隊ノ兵力ニ比シ自動車ノ配當過少ナリシ爲一車ノ
 負擔量大難路ニ遭遇スルマ屢行軍長徑ヲ長大ナ
 ラシムル因ヲ爲セリ各隊ニ對スル車輛ノ配當ニ関シテ更ニ
 携行彈藥材料等ノ算定ヲ綿密ニスルノ要アリ
 現今ノ歩兵ヲ單ニ小銃ノミト考ヘルハ甚シ誤ノ大ナルモナリ
 又從來ノ討匪戰等ニ鑑ミルニ敵ハ山地ニ於テ好ニテ誘致戰
 法ヲ採リ山間ノ長隘路ヲ通過スル際ハ常ニ警戒ヲ要ス
 ルモ安北城附近ノ戰場ノ如ク平地ニ於テハ素質ナル分

ナラサル彼等ヲ奇襲、急龍衣的ニ又包圍英的ニ勇猛
果敢ニ攻撃スル時ハ何等策ノ施ス術ヲ知ラス潰乱ニ陥
ラシムルコト易クタリ

今回ノ如ク自動車ニテ驀進スル時其價值頗ル大ナリ

七、功績ニ関スル事項

本戦ニ於テ第一甲隊、機関銃隊、旅團機関銃小隊
歩兵砲小隊カ頑強ナル敵ニ對シ極メテ緊密ナル協
同戦ニ依リ遂ニ安北城南角ヲ奪取同城一番衆リシ
赫々タル武勳ヲ樹テシ功績ハ特ニ披辭ナルモノト認ム

里